

I. 総括的概要

23年度の日本商工会議所青年部（日本YEG）は「共に創ろう次代の日本！今こそYEG(われら)が地域の礎となる！」をスローガンに、「検証」「ビジネス」「情報交流」の3テーマを中心に活動を展開した。

具体的な活動としては、日本YEGのこれまでの活動と、その結果についての検証内容を記した「組織と事業についての検証報告書」の作成や、各地YEGメンバー企業を対象に、地域を超えた同業種間の横の繋がりを提供する「業種別部会」を創立したほか、会員相互の「親睦・交流」「研修・研鑽」を促進し、各地のYEG活動の活性化を図ることを目的として全国9ブロックにおいてブロック大会を開催した。また、会員同士の研鑽・交流を目的として、11月に山形県米沢市で「第29回全国会長研修会山形米沢会議」を開催、1,392名の参加を得た。さらに、24年2月には、富山県富山市で4,675名の参加を得て「第31回全国大会越中富山大会」を開催。各地商工会議所青年部の意識高揚、連携強化等を図った。

このほか、地域活性化や青年部活動の模範となる事業等に取り組んだ青年部を表彰する「YEG大賞」や、青年部会員を対象に経営能力やプレゼンテーション能力の資質向上研修も盛り込んだ「ビジネスプランコンテスト」、若手国家公務員との交流・意見交換を行う「故郷の新しい風会議」、青年部会員同士のビジネスマッチングを促進する「ご縁満開YEGビジネスサイト」の運営やビジネス交流会等、多岐にわたって商工会議所青年部および会員企業の発展に資する活動を展開した。

また、東日本大震災からの復興の意思を明確にするため、スローガンのほか、「笑心(えがお)を合わせ、力に変えよう！」というサブテーマを加えたうえ、復興支援チームを立ち上げ、被災地YEGを通じ報収集・発信等を実施した。あわせて、全国402単会27,000名の青年部会員に義援金募金の呼び掛けを行い、39,803,983円を関東および東北ブロックYEGへ寄付した。(平成24年3月31日現在)

なお、24年3月末現在の青年部設置数は448カ所(514商工会議所中の設置率87.2%)、うち日本商工会議所青年部加入は402カ所(加入率89.7%)となっている。

平成23年度日本商工会議所青年部事業計画

スローガン

「共に創ろう次代の日本！ 今こそ^{われら}Y E Gが地域の礎となる！」

サブテーマ

「笑心（えがお）を合わせ、力に変えよう！」

所 信

私たちが愛してやまないわが国「日本」はいま、かつて世界第2位を誇ったGDPは他国に抜かれるなど、国際的な日本ブランドも下降の一途をたどっています。国内では人口減少、少子高齢化、政局の不安定に加え、日本固有の文化・国民の道徳に至るまで、これまでの常識が通用しない危機的な状況におかれています。

こうした状況の中、私たちY E Gは今まで以上に地域社会の中での役割が大きくなり、無から有を生み出す発想力と次代を先駆ける行動力が求められていると考えています。

そして、おりしも来年度創立30周年という大きな節目を迎える日本Y E Gは、約400単会の連合会であり、また日本商工会議所の青年部という全国的組織として、その役割を明確にし、確固たる信念のもと力強い組織に発展していけるよう足固めをしていかなければならないと思っています。

「企業の寿命30年説」というものがあります。

～小粒でも活きのいいのは30年。その後はさらに充実を図りながら変革を続けて、以前の強さを維持していくことが次へのステージである。～

つまり、過去をしっかりと振り返り、検証を基にして、新しい時代にあった組織の新たな創造を目指さなくてはならないのだと思います。

日本Y E Gは約400単会、そして約27,000名のメンバーを擁する組織です。

この巨大な組織は一つの企業体 ～バーチャルコーポレーションY E G～ として、企業の活動サイクルであるP（計画）D（実行）C（検証）A（改善）を実践する必要があるのです。

そこで、私たち日本Y E Gのこれまでの活動とその結果について、会員の声を聞き、「綱領」「指針」に照らし合わせて検証をし、これからの日本Y E Gの進む「道」を固める礎として未来に繋げてまいりたいと思います。

また、私達27,000名のメンバー一人一人が、より力強い経営者となっていくことが、地域の経済に貢献するばかりでなく、その集合体としてのY E Gが内外に影響力を発揮できるものと思います。

そのため、経営者としての資質向上のための研修や27,000名が経営する事業所発展のためのビジネスネットワークを支援してまいります。

共に創ろう次代の日本！ 今こそ^{われら}Y E Gが地域の礎となる！

今こそ、「豊かで住みよい郷土づくりに貢献する」という確固たる信念を持ち、私たち400単会がそれぞれの地域の礎となり、そしてその“力”を結集することで、次代の日本、そして次代の日本Y E Gを共に創ってまいりましょう。